

平成26年度第1回柴田町男女共同参画推進審議会 議事概要

【日 時】

平成26年7月18日（金） 午後3時～5時

【場 所】

柴田町保健センター 3階 講習室

【出席者】

柴田町男女共同参画推進審議会委員 9名（別紙のとおり）

事務局（柴田町まちづくり政策課） 4名

【資 料】

- ①平成26年度男女共同参画推進審議会委員名簿
- ②第3次しばた男女共同参画プランに基づく平成25年度事業実績及び平成26年度事業計画書
- ③平成26年度男女共同参画推進事業（案）
- ④第4次しばた男女共同参画プラン策定方針（案）
- ⑤平成26年度第1回男女共同参画推進審議会事前意見調書まとめ
- ⑥柴田町社会福祉協議会提供資料（防災学習プログラム・災害疑似体験）
- ⑦しばた女性施策推進基本計画作りに関する町民アンケート

【内 容】

進行：事務局（平間）

※審議会は公開とされているため、録音機器で協議を録音したものをもとに議事概要を作成し、町ホームページで公開する旨を説明。

【議 事】

1. 辞令交付

委員改選に伴い全員に辞令を交付。

2. あいさつ（まちづくり政策課長：平間忠一）

柴田町は平成10年に柴田町男女共同参画のための都市宣言を県内いち早く行いまして男女共同の啓発に取り組んできました。そして平成24年には議会の女性議員を中心として柴田町男女共同参画推進条例を作り町の役割、町民の役割、企業の役割をきちんと明示した仕組みづくりも県内トップを切って作りました。審議会は今回新た

に2年の任期を迎え、柴田町の男女共同参画を推進する上で、貴重な意見をいただく場になっております。

昨今、安倍首相が第三の矢として、女性の社会進出を推進し、女性の力を借りていこうというような政策を打ち出してきております。今後は国の政策に町も追随するような形で仕組みづくりを構築していかなければならないということです。雇用や子育て支援といった女性のための処遇改善を図っていくよう国自体もいろいろな制度を駆使してきています。町は、このような背景の中でよりよい男女共同のまちを今後とも推進してきたいと思っております。また、委員の皆さんの任期中、平成28年度から新たに始まる計画の素案についても貴重な意見をいただく機会となりますので、どうぞ自由に忌憚のない意見をいただきますようお願いいたします。

3. 委員の紹介

※名簿順に事務局から照会。

4. 会長及び副会長の互選

事務局案の提示を求められ、会長に作山美智子委員を、副会長に青木明委員を推薦し、賛成多数により決定。

【会長挨拶】

僭越ながら会長を拝命いたしました、作山でございます。どうぞよろしくお願い致します。今年は、女性の活躍が注目されている年かと思っております。東京都議会議員のセクハラ発言問題や、子育ての問題も本当に進行化してまいりました。それから介護問題の中で老老介護、つまり在宅で介護をしている方の中の介護者が65歳に達しているのは半分を超えているという事態が迫ってきているというのを新聞などで見かけました。柴田町の高齢化率も高くなってきておりますので、子どもたちを育てながら介護問題や町を活性化するために女性の働き方、男の働き方というものを真剣に考え考えられる審議会になればいいと思っております。皆様の忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

4. 議題

(1) 第3次しばた男女共同参画プランに基づく平成25年度事業実績書及び平成26年度事業計画書について

<委員>

私なりに改めて全て読み返してみました。評価の仕方は、「～しました」などの実践したとされる文言を数えて達成率を算定しました。すると、

目標1「仕事と性格の調和の推進」は70%で高いが、年中行事を抜くと30%。

目標2「雇用の場における男女共同参画の推進」は「行いました」が2つしかなく20%。

目標3「あらゆる暴力の根絶」は「行いました」が8つで30%。

目標4「防災分野での男女共同参画の推進」、昨年あれほど素晴らしい研修会を行ったのに言葉尻が悪いので0%。

目標5「あらゆる分野での男女共同参画の促進」は15件のうち3件だけで20%。

全体事業108項目のうち52件が「～やりました」となっており、48%の達成率が高いものだと思うが、「支援しました」だけでは成果を確認したことにはならないので、審議会委員としては、来年は「～しました」という言葉が増えるよう期待します。

一番問題だと思うのが、労働に関する相談という項目で相談がなかったという点です。これはあり得ないことだと思うので、相談を受けやすい体制を整えてほしいと思います。

また、0%の達成率であった防災分野について、成果を上げるために今年度事業を検討したことはいいことだと思うので応援します。

<委員>

組織でもよくありますが、男女共同参画の中で、目玉になるものを1つ設定して、丁寧にそれを軸に事業を展開すれば底上げができると思います。

せっかく防災に力をいれておりますので、それをちょっと強く推し進めて、そこから波及させていくなど、成果の見えるものから実施し、そこから体系的に進める手段をとっていかないと、町としても、町民としても、ミスマッチが続くようではかなり厳しいかと思いますので何か1つ目標をもって深く掘り下げていったほうがいいのかと思いました。

<委員>

25年度だけでなく24年度とも比較してみて、前回指摘したことがだいぶ改善されていると思いました。審議会の意見がしっかり反映されているのだと思いました。しかし、各課共通しているのが、この事業に何人というのはわかるが、その事業がどのような事業なのかが分からないので、もう少し詳しく実績書に記載していただけるよう、全課共通して取り組むようお願いいたします。

<委員>

数字の記載が多くなっていたり、具体的な「父と子」や「低学年」といった言葉を使って報告して頂いていたので、以前より分かりやすく良いと思いました。

<委員>

資料を読ませていただき、町もこのような活動されているのだと思いました。今回から参加させていただくので、これ以前の結果が分かりませんが、これから頑張っていきたいと思います。

<委員>

私も今回が初めてで、資料をすべて読み切ることはできませんでしたが、防災分野において、災害にもいろいろな災害があるので、今回多少質問させていただきました。あとは、個人情報保護の関係で、私も地区の役員をしているのですが、要介護者関係で民生委員だけが知っていて地区の役員には共有されていないなどの問題があります。これからいろいろと勉強しながら参加したいと思います。

<副会長>

男女共同参画というと、どうしても女性を中心に考えてことを進めるというイメージがありますが、共同参画という名前の通り、男性女性問わずこの社会を作っていかなければなりません。審議会としてこれほどの提案をし、そして町にも応えてもらえているということは素晴らしいことだと思います。現行の第3次しばた男女共同参画プランについて検証し、よりよい次期の第4次計画につなげられるよう勉強しながら取り組んでいきたいと思います。

<委員>

成果の数値も入っていますし、見やすくしていただいているなと感じました。社会福祉協議会としても何項目か関わっているので、今後もう少し具体的な結果が出せるような関わり方をしていきたいと思います。

<会長>

仕事と生活の両立ということで、私が仙台大学の学生達と一緒に放課後児童クラブの学習の充実という事に一緒に取り組んだのでこれに関心がありました。それと(3)高齢者や障害がある方が安心して暮らせる環境作りということで、3.高齢者サークル活動などの支援ということがありますが、これはそれぞれに対象者も違うし企画も別々なのですが、少しひねって考えますと、退職してから75歳になるまでの元気な前期高齢者が、学童保育の子どもたちに囲碁を教えるとか、将棋を教えるといった取り組みをして成功している事例がありますので、これらをバラバラに展開するのではなくリンクさせるといった発想もこれからは必要だと感じました。リンクさせることで、予算も少し大きくとれて力がある事業が展開できるのではないかと思います。

それから地域で月に一回程度の学童から高齢者までいろいろな世代がみんな調理

をして食事会をし、それが活力になっているという成功事例の報告もあります。こういったやり方もヒントになると思います。仙台大学には運動栄養学科がありますので、そこでの調理をやって認定書を出しているという報告書は実績書の中から見とれましたが、その認定書をもらった方たちが地域に帰ってどのように活躍しているのかがよくわかりません。大学には敷居が高くなかなか行きづらかったりするときもありますので、逆にどこか町の真ん中の集まりやすい所で、場所を提供して、そして町の予算も少しかけて、自分でお料理を作るよりはお昼は月いっぺんあそこに行くと会費200円くらいで何か食べられるよ、とかそういうのもいいのかなと思いました。

→事務局

会長が言うように男性の地域参画支援ということで、生涯学習課が定年後を迎える方を対象に20×3で3回目の成人式というものを槻木・船岡・西船迫にお住まいの約300人を対象に毎年行っています。ところが参加が18名、1桁のときもあり、まだ自分は現役というような意識の強い方が多くいらっしゃいます。ここをなんとかしてはいけないと言う事で、来年新たに65歳以上のかた対象に、いろんな施設に協力したり、学校に行ったり、高齢者たちとお茶のみをしたり、そのようなボランティアに対してポイントを付加して、商品券に変えるなど有償的な考え方で社会に出てきていただけるような制度がスタートします。それから、今年、新たに健康づくりポイントがスタートし、地域の中で顔を合わせようという事業が展開されています。ですから、ある程度外に出そう出そうというような形ですね、企画はされており26年の実績にはそれが実際的に報告できると思っております。

<委員>

私はちょっとしたきっかけでイベントに携わるようになりましたけども、失礼ですが、そういうものを開いて、本当に出たいと思うのでしょうか。男性は、あなたが勝手に作ったのだから勝手にやれという考えでいる人が多いと思います。その点、女性のお年寄りの人はすごい。展示イベントではちぎり絵やら作品のほとんどが女性の高齢者のものです。男性はそれができないのではなく、素直にそこに入っていけないのが原因です。あの震災後、引きこもりの男の人を外にだすのに非常に苦労したというのを聞きました。

町もいろいろな企画をしていますが、これだけやって動かないのは、動かない本人にも原因があると思います。ですから男の人がやりたいことを直接聞いて、やりたいことが同じ人たちでサークルを作るとか、そういう人と人の橋渡しをしていくことから始めないと、なかなか男性の高齢者は外に出てきてくれないのではないのでしょうか。何か魅力的なイベントを企画するとか。

<会長>

ターゲットを絞って、核となるようなその年の男性をしっかりと育てていくことが重要ですね。よく民間放送には脱サラじゃなくても定年になってから農業始めたとか、少し芽を出し始めたような人たちを特集していますよね。生き方かなあとは思いますが、何もしないではいけないので、これはこれとして評価に値するものだと思います。

<委員>

みんなで一緒に料理を食べるとか、人が集まって食べる食は大事だと思います。上川名地区では定年退職した人たちがすごく盛り上げていて、みちの駅などもやっているんで、こういった成功事例をどんどん取材するなど、皆さんにこれぐらい楽しくやっていますよって楽しさをアピールしないと、そこに人は寄ってこないんで、事業の企画というよりは、楽しいというアピールをしていったほうが人を集めやすいのではないですか。

<委員>

それにつけても、出してもらわないことにはね。町の税金を使っているから、その言葉尻が「拡大しました」や「検討しました」というのは、努力しているだけで確実な評価がないために審議委員としては税金の無駄遣いとしか言いようがない。

ですから、さっき言ったように0%の防災分野で、女性のリーダーも男性のリーダーも育てる、防災に関わるような楽しいイベントを企画したら効果的ではないでしょうか。

<副会長>

先程の3回目の成人式ですが、どのような講座を設けて、どのような活動したのでしょうか。この報告書からはちょっと分からないので教えてください。

→事務局

これは生涯学習館の事業で、定年退職をしたら今度は地域で活躍していただきたいという内容です。まず町長がまちづくりに対して熱い情熱を1時間くらいお話しします。次に町のバスに乗って館山城址公園や槻木の里山ハイキングコースなどいろいろなポイントを2時間くらいかけて案内し、そのあと公民館を使って、公民館はこんな施設だから料理もできるというようなことを知ってもらい、地域の自主活動をやっている人たちと一緒にご飯を食べながら、だいたい半日以上行程で実施しています。

<副会長>

参加者の18名の内訳ですが、すでに地域で活躍している人が参加したのか、これから頑張ってみようという人が集まったのか、それによって今後のイベントを考えたときに、どの辺にターゲットを絞るのが良いか見えると思いますが。

→事務局

アンケート調査しているかはわかりませんが、招待状が届いたから来たという方が多いみたいでした。ですから、60歳じゃなくって65歳以上だと出やすいんじゃないかなど。定年制が60という前提のプログラムなので、そこから検証をしています。

槻木生涯学習センターの中で父ちゃん技磨という事業をやっているのですが、これなかなか参加者が2桁にならない。本当にある程度固定された方しか男性は出てきてくれない状況にあります。

<委員>

シルバー人材センターで役立てたい人はいいが、今どき障子貼りでは人は集まらない。子どもと遊ぶスマホ講座など、参加したくなる企画を考えないと。焦点の当て方もうちよっと、工夫してほしいです。

→事務局

これらを踏まえて、1年間検討させていただきます。26年はもう既に始まっているので、次回から反省して報告をしたいと思います。貴重な意見ありがとうございました。

(2) 平成26年度男女共同参画推進事業について

事務局説明：平成25年度第2回審議会では昨年実施しました、防災ワークショップが好評だったことから、今年度事業についてはそれを発展させた形とのご意見がありました。そのことを受けて3つの案を提示します。

<委員>

私の会社での防災関係ですが、男女のすみ分けは全然しておりません。実際は備蓄や、連絡体制がうまくいっているかということを中心にやっております、炊き出しについては会社の食堂に業者がおりますので、そちらに担ってもらっています。何か起きたときには防災本部が立ちあがって、東日本大震災の時も300人以上の従業員

員の安否確認を行いました。会社から連絡はしますが、従業員から連絡をしないという教育をしておいて、電話がダメなら車で直接というようにして、全員の安否確認に3日ほどかかりました。

<会長>

今私たちがやっているのは男女共同参画という、男性も女性もと少しこだわってはいませんが、まずは人命の安否確認でうまくいっているということ、行政地区単位にスリム化して、こんな風にして常時やっているとよいということにも繋がりますね。会社という指示命令系統が行き渡る組織の成功事例を、町内会の班ごとに活用できないだろうかということも考えられます。

<委員>

ある地区では、無事であれば玄関に黄色いハンカチを出して知らせるという案もできているようです。

<委員>

町で緊急時に一括統括する中心地点のような、落ち着いたらみんなそこに逃げればどうにかなるような建物を建てる計画はないですか。女の人が三度の食事を作るのが当然だと思われていると聞いています。しかし、ある程度落ち着いたら町がそのような施設で人を雇って、食事を出すなどしてくれれば、女の人の負担も減ると思います。

→事務局

基本的にはこれから建てる給食センターや、やはり避難する施設と言う事でトッコン跡に建設計画のある総合体育館を活用したいと考えています。ただ総合体育館は避難所といっても柴田町民三万人が一斉に入れるような施設ではありません。まして歩けない人をどうやって連れて行って、誰が連れて行ってとなると、やはりまずは地区の集会所ということになるかと思います。

<会長>

3日から一週間分は自宅に備蓄をしないというのが通常のお考え方になってきています。東日本大震災の時も、日本海をまわって支援物資が届いたためにとっても時間がかかったし、三日くらいはたいした物を食べてないという人がざらにいたという事を考えると、国に依存するよりも、自分たちで頑張ろうと気運を高めることも大事なかなと思います。

<委員>

その時大事なのはリーダーですね。やっぱりリーダー育成は急いだほうがいいのか
な。

<委員>

仕組み作りのハードの面と、ソフトの補強は、町だけに依存というのではなく、一
人ひとりの意識を育てる高めていく教育的な啓蒙活動をセットでやっていかないと
なかなか整わないという気がします。

<委員>

私の地区では、東日本大震災の時に近くに仙台大学の剣道部の合宿所があって、そ
この寮母さんが地区の方と一緒に学生たちの面倒をみたり、また同じように地区の避
難している老人たちの面倒をみたりしながら、長い人は約一週間集会所で生活してい
ました。常日頃から大学やその地域のなかで、連絡を取り合いながら地域活動をする
という形で声を掛け合っていると、困難でも乗り越えられると感じました。地域単位
で食料を考えれば4, 5日から一週間位は持ち合いながら過ごせると思うので、やは
りそのような体制を地域で作っていかねばと思います。

→事務局

事前意見調書により、社会福祉協議会でのノウハウがあるのではとのご意見頂戴し
ており、社会福祉協議会さんから、防災学習プログラムの資料と災害疑似体験の2つ
の資料を頂戴しました。どちらも小中学生を対象にしているのでひらがなを多く使っ
たり、非常にわかりやすく作られています。ご参考になさってください。

<会長>

高齢者が参加しても、あまり難しい言葉もなく受け入れやすいと感じますが、社会
福祉協議会のこういった防災学習プログラムを取り入れるという考え方もありますが
いかがでしょうか。この費用はどれくらいですか。

<委員>

費用はかからずできます。実施する内容によっても違いますが50人位の受け入れは
可能かと思います。

<委員>

うちの子供も参加したことがあり、その後興味がわいたみたいで、懐中電灯や水を
準備しなければなど素直に吸収してすごく勉強になったようです。小さい子どもたち

も参加できる内容にするなど工夫して取り組むのはどうでしょうか。

<委員>

対象によっては理解力が変わるので、低学年になると難しいです。小学校へも4年生以上を対象に実施しています。また、親子限定のプランは今の時点でないので何とも言えない。

<委員>

子どもを持っている親とすれば、親子の企画は参加しやすい。若い方から女性リーダーを育てるのなら、この企画を親子で参加できる形にできればすごくいいと思う。

<委員>

火事になったらどうやって逃げるかということとか、親子で参加するゲーム感覚の事業はありますので、内容によっては対応も可能だとは思いますが。

<委員>

親子というのは福祉の観点でやっていただいて、私たちは男女共同参画の審議員だから、親子じゃなく男女共同ということから外れずにやっていきたい。東日本大震災では、みんなが助け合わなければどうしようもなかったのが、防災分野で男女共同参画を進めるのは非常に良いことだと思う。

社会福祉協議会でノウハウがあるのなら、それを男女共同のレベルまで上げて取り組んではどうか。昨年度の実績でも述べましたが、防災分野が弱いので、昨年の研修会を実際に現場に落とすような企画を立てていただければ、柴田町の防災レベルも上がるのではないのでしょうか。

<委員>

子どもも男と女がいて、親子で参加の企画だと子育て中の女性も参加しやすく、女性リーダーを育てていくためにはよいのではないのでしょうか。お父さんと子どもで参加する場合もあるし、おじいちゃんとおばあちゃんが参加する場合もある。いろいろな年代の男女が参加できることが良く、それで全体的な男女共同参画を推進することができるのではないのでしょうか。

<会長>

昨年の講義はよかったと思いますが、やはり危惧するのは本当に集まってくれるかということですね。できれば4、50人位は集まってほしいというのがありますけど、ちょっと変化球を投げて親子というのもよいのではないかと思いました。子ども

達が楽しそうにやっているというものに関しては、親も付いて行ったり、おじいちゃんおばあちゃんももしかしたら付いて行って、そこで少し輪が広がっていくかなというのは、柴田町の体質に合っているかなと思いますがいかがでしょうか。

<委員>

反対しているのではなく、子どもたちに男女共同の意識付けをするのもいいですが、私達のこの会は、男女共同参画プランを推し進める役目もあるし、もし明日地震が起こったら、このことを分かっているなければならないのは大人たちなので、社会福祉協議会さんのプログラムを、大人のレベルまで高められないかということです。

<委員>

前回の講座はかなり声を掛けたいです。それくらい人集めは難しいので、親子なら集めやすいと思いますが。

<委員>

人数が問題じゃなく、男女共同参画を進めるための手段として事業を行わなければいけないのではないのでしょうか。半強制的にでも教えて、みんなに広めないと、大災害が起こった時にまた困ったことになってしまいます。今年の講座を広げるような手段があれば、無駄にならないし。もちろん親子が悪いということではないので、その男女共同ということから外れなければ良いと思います。

<委員>

アルソック警備保障会社で、防災教室をやっているようです。自治体にも出前講座に行っているようなので、民間の考えを吸収する機会としてこういったものも考えてみてはどうか。

<委員>

防災訓練が主じゃなく、あくまで男女共同参画を広めるための一手段として、訓練の最後に男女共同参画にかんする講演者を一人呼んで、講話をいただくとか。それがしっかりしていれば、どんな対象者だって問題はない。

→事務局

この件については、各委員のみなさんのご意見をもう少し事務局で精査させて頂いて、事業については一任をさせていただきたいと思います。

(3) 第四次柴田男女共同参画プラン策定方針について

事務局説明：次期計画の第4次しばた男女共同参画推進プランの策定に取り組むにあたり、その方針をお示しいたします。また、今年度事務局としてはアンケート調査をメインに実施したい考えですので、方針の内容と前回実施したアンケートを添付しているのでその内容についてご協力をお願いいたします。

<会長>

第4次男女共同参画プランの策定は事務局が中心に素案を作成し、審議会開催回数は増えますか。また、アンケートの実施時期はいつ頃を考えていますか。

→事務局

今年度はアンケート調査を実施します。アンケート内容は前回のものを改良して実施したいと考えていますが、その内容については、委員の皆さんと郵送でやり取りさせていただき、アンケート集計が終わったら審議会を開催し、年度末にその検証結果などをお示ししたいと思っておりますので、もう一度審議会を開催したいと考えています。つまり事務局としましては、今年度はあと2回の審議会開催を予定しています。アンケートの時期については9月を予定しています。

<副会長>

前回実施したアンケートへの意見ではなく、アンケートの題名も含めて事務局案を示していただき、それに意見するという形にさせていただきたいです。条例も制定され、あまり質問形体を変えるのもよくないと思うし、その方が早い。

→事務局

では8月のお盆明け位に送付できるよう準備します。

4. その他

本日出席いただきました報酬については8月7日の支払いを予定しています。

次回の開催ですがアンケートの回収と、推進事業が終わってからの12月頃を予定したいと思います。日程は改めて調整したうえでご連絡させていただきます。

5. 副会長挨拶

今日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。活発にいろいろな意見が出ましたので、事務局にまとめていただき皆さんの意見を報告していただきたいと思います。皆さん長時間ありがとうございました。

【本審議会の審議内容のまとめ】

- ・事業の内容など詳細な点についても報告書に記載するよう担当者に周知を図ると共に、住民が参加しやすい事業を検討します。本格的に計画に反映させるのは次期計画から。
- ・事務局に一任。審議会の意見をまとめ、昨年度の事業を発展させた形での事業を検討します。
- ・アンケート案を事務局が作成し、それに対して委員からご意見を頂戴することとします。アンケート案の発送は8月下旬。